

■ 玄米認証標準物質を定期的に測定し精度管理に使用しているが、日を追うごとに測定値と認証値とのずれが大きくなっていく

FAQ No. : FAQ2011-003	DOC Rev. : 0	公開日 : 2015/7/23
対象 Version	-	
対象 MCA	-	
キーワード	精度管理、減衰補正、基準日時、定量分析	
文書番号	シ 150021	

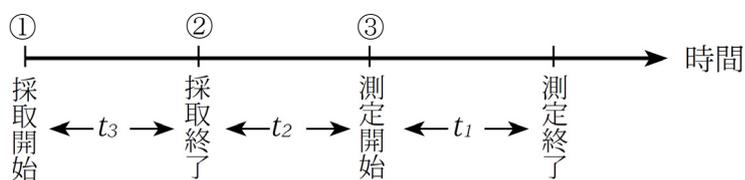
【ご注意】

- この文書は、お客様の所有される環境で発生する可能性のある事象に対する一般的な対応策を記述しております。
- 特定の環境では対応策が適当ではない場合も予想されます。
- 対応策に関して弊社が保証あるいはサポートを付加するものではありません。

症状	
玄米認証標準物質を定期的に測定し精度管理に使用しているが、日を追うごとに測定値と認証値とのずれが大きくなっていく	
原因	対策
減衰補正が正しく設定されていない	次のいずれも実施する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">● 採取終了日時に標準物質の基準日時を設定する● 減衰補正設定を採取終了日時(採取～測定の保存時間、測定中の測定時間)に設定する 詳細は次ページをご覧ください。

ガンマ線核種分析の減衰補正に関するトピック

精度管理を目的として玄米認証標準物質を測定分析する場合、②採取終了日時に標準物質の基準日時を設定し、更に減衰補正を②採取終了日時（採取～測定の保存時間(t_2)、測定中の測定時間(t_1))での放射能濃度を求める設定にする必要があります。



誤って、①～②間の採取中の期間(t_3)における減衰補正も実施すると正しい値が得られません。

なお、採取中の期間(t_3)における減衰補正は、エアサンプラのように、採取中に一定放射能濃度で採取される試料において、採取された放射能の減衰を補正したい場合に使用します。

以上